令和７年度　第四回大東市産業振興市民会議（報告）

１．日時・場所　令和８年１月３０日（金）午後３時００分～５時３０分
　　大東市役所　厚生棟Ａ会議室

２．出欠（敬称略）

【出席/大東市産業振興市民会議委員】

大阪産業大学　社会連携・研究推進センター長　国際学部国際学科　教授	中山　英治
大阪公立大学　商学部　教授	本多　哲夫
（株）山田製作所　代表取締役	山田　茂
明星シンセティック（株）　代表取締役	上田　隆章
ＮＰＯ法人住まいみまもりたい　理事長	吉村　悦子
ＮＰＯ法人大東夢づくりコミュニティ　代表理事	中村　朋子
小金屋食品（株）　代表取締役	吉田　恵美子
大東商工会議所　常議員　（株）ウチダ　代表取締役	内田　祥嗣
近畿経済産業局　総務企画部中小企業政策調査課長	阿瀬　太

大東市　　産業・文化部長　田中　知子
事務局　産業経済室　杉谷総括次長・椎葉課長・林上席主査・田上

【出席/田川市産業振興会議・実務責任者会議】

一般社団法人福岡県中小企業家同友会　相談役理事	中山　英敬
福岡県中小企業家同友会　田川市部	荒川　雅光
福岡県中小企業家同友会　田川支部	奥永　尊仁

事務局　産業振興課　平塚課長補佐・松田

【欠席】

新大阪食品産業（株）　代表取締役	北尻　正太
大東市商業連合会　会長　JILLS	角谷　昌寛
アッセンブル産業（株）　代表取締役	竹原　清司

３．山田会長挨拶

　本日、朝から神戸製鋼所と草津電機が見学に来ていました。両社とも業績が良いながらも悩んでおり、生産性を上げるためにという意味でも見学に来ていました。わが社の話で言うと明日が決算ですが、減収増益でした。

　今は設計部門に力を入れており、例年であれば売り上げの 90％が顧客支給図面でしたが、去年は 30％強が自社で設計した図面でした。

そのため、付加価値が高く、価格決定権を持った仕事が出来たと考えております。その結果もあり、増益となりました。ただ、10 月までは数字も良かったですが、11 月から急ブレーキがかかっている状態です。今は全社員で盛り上げようとしていますが、自社だけでなく他社とのビジネス交流を通じた援け合いも必要です。また、援け合いには信頼関係が重要です。この点は産業振興会議のメンバーが先頭に立って、旗を振っていければと思っています。

さて、今回は田川市とのオンライン会議を開催します。以前は田川市が大東市に視察するような状況でしたが、現状は逆転してしまっています。大東市は日本の中でも特に産業施策を必死に行っている市だと思っています。今回の会議を通じてしっかり学び、今後の施策を続けていきたいと考えています。

４．大東市産業振興市民会議概要説明

事務局より資料１～資料９について、本日の流れについて説明。

５．今年度の産業振興市民会議の流れについて

事務局より、今年度の市民会議の内容をまとめた報告書を作成し、令和８年３月頃に山田会長から市長へ報告いただく旨を説明。

６．大東市の産業振興ビジョンについて

椎葉課長より、平成 19 年に策定された大東市産業振興ビジョンの改定に取り組んでいることを説明。また、今後、改定したビジョンを各委員に示し意見をもらう旨を説明。

７．オンライン会議開始、山田会長挨拶

田川市の皆様こんにちは。大東市産業振興市民会議の会長をしております、株式会社山田製作所の山田茂と申します。本日はよろしくお願いします。

さて、資料 9 にもありますように、大東市地域産業振興基本条例については、平成 23 年 6 月 24 日に施行されました。この条例については市民会議からスタートして作られたものです。本会議はこの条例に基づき、円卓会議として、PDCA サイクルを回しながら開催している会議です。

その中で中小企業の産業振興施策に関して様々な議論を行ってきました。また大東市では中学生向けのキャリア教育支援や、大阪府で一番初めに作られた奨学金補助制度、市内企業の新入社員の合同入社式などが開催されています。その中で、大東市の 10 年先を見据え、大東市のありたい姿の議論を重ねてきました。また、大東市でビジョンを作る際は田川市のビジョンも参考にさせてただ来ました。今後については、このビジョンを具現化し、実行していかなければいけません。

その実行についての部分を、先進的に行っている田川市の皆様に教えていただければと思います。

本日は短い時間になりますが、宜しくお願い致します。

８．中山会長挨拶

皆さま、こんにちは。本日はこのような視察会を設定していただいきありがとうございます。

おかげさまで少しずつ、田川市も条例に基づく活動が進み出してきており、多くの地域の経営者の皆様、議員の皆様、それと大学教授の皆様など、多くの方が視察に来ていただいています。また、私たちも

注目をいただくことで、「もっと頑張らないと」というような形でモチベーションも上がっております。
　本日、どれだけ参考になるかはわかりませんが、実際にやっていることをそのままお伝えできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
　条例制定後、産業振興会議の構成団体から実務者を選出し、その実務レベルの会議を 2017 年 4 月から毎月開催しております。また、そのスタートに合わせて福岡同友会で田川支部を作りました。
　荒川くんは現在の実務責任者会議の委員長です。スタート時点の委員長から交代しまして現在二代目の委員長です。
そして当時、田川支部の支部長でもありました、奥永くんは現在の福岡同友会田川支部の支部長です。
　この実務責任者会議においては、部会活動が始まり、第四部会の部会長というところから積極的に役員として関わっていただいております。本日は短い時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

９．田川市(事務局の松田様)からの説明
　まずはじめに、田川市中小企業振興条例に基づく活動についての説明に入る前に、田川市を取り巻く環境について簡単に説明させていただきます。
 田川市は福岡県の中央部に位置し、福岡市から 70 分ほど、北九州市から 50 分ほどの場所にあります。県内の主要都市からのアクセスが良いことから、その立地適性を生かして、企業誘致等の様々な施策に取り組んでいます。
　人口はおよそ 4 万 4 千人、世帯数およそ 2 万 4 千世帯です。面積はおよそ 55 平方キロメートルで、山手線の内側の面積とほぼ同じくらいの大きさです。
　本市の主力産業は卸売業、小売業で、続いて製造業、建設業となっています。また、直近 30 年間では大きな災害に見舞われておらず、比較的災害の少ない地域です。
　田川市については、かつて田川市は炭鉱発祥の地として質の高い石炭を採掘していました。石炭の産炭地であった筑豊炭田には、仕事を求めて全国から移住者が訪れるなど賑わいを見せていて、1917 年、大正六年には全国の出炭量の 50%を占めるなど、日本の近代化に大きく貢献しました。
　右上の写真は TAGAWA コールマインフェスティバルの様子です。炭鉱の町として栄えた田川の文化と歴史を全国に発信すること、また、ふるさとの誇りを後世に継承していくことを目的とし、炭鉱節に登場する旧三井炭坑の下で開催しているお祭りです。
　また、その左側が田川市石炭・歴史博物館です。平成 23 年に日本で初めてユネスコ世界記憶遺産に登録された山本作兵衛コレクションを展示しています。山本作兵衛コレクションは、作兵衛氏自身が従事した筑豊炭田の炭鉱の仕事にまつわる炭鉱記録画や日記などからなり、日本の石炭産業の急速な発展を示す他に例のない記録として国際的に高く評価されています。
　その下、色彩鮮やかな山が目を引く写真は、風治八幡宮川渡り神幸祭の様子です。田川市のお祭りでは山笠と書いて山と呼ぶのが特徴です。いくつもの神輿と山が川の中に入り、水しぶきをかけ合う、本日まで約 470 年続く歴史と伝統を誇るお祭りです。福岡県の五大祭りの一つに数えられ、県の指定無形民俗文化財に登録されています。
　左下の写真はチロルチョコレートの製造工場です。田川市はチロルチョコレート発祥の地で、全国のチョコレートはこの田川市で製造されています。工場の近くに直営のアウトレットショップがあり、この店でしか買うことができないチロルチョコを安く買うことができます。

それでは、田川市中小企業振興基本条例に基づく活動について説明をさせていただきます。

田川市では平成27年9月、中小企業振興基本条例を制定しました。

条例は基本理念や方針を示す理念条例であったため、制定しただけで活動が終わってしまうことがないように、事業所が元気になるという目的を果たすための組織が必要だと考え、目的達成に向けた方策の決定や専門的な知見からのフィードバックができる仕組みづくりのために、諮問機関である田川市産業振興会議を条例で規定しました。

こうした条例の規定を受けて、平成28年10月に田川市産業振興会議が発足しました。産業振興会議の前身である勉強会のメンバーを中心に、地域の金融機関や、市内の高等学校などの教育機関、より生活に密着し、意見を取り入れるため、市民代表の方を新たにメンバーに加え、構成を行いました。

この産業振興会議の委員は、大部分を各団体の代表者で構成しており、継続的な活動への参加が難しい場合が多いため、平成29年4月に下部組織として実働部隊の実務責任者会議を設置しました。

実務責任者会議には、産業振興会議に参画している団体から、実際に活動のメインプレイヤーを担ってもらう方を推薦していただきました。

産業振興会議で条例目的達成に向けた方針を決定し、産業振興会議の方針を踏まえた活動計画の企画立案を実務責任者会議が行う。そして実務責任者会議の委員を中心に構成された部会で、活動計画に基づく活動を行うという位置づけで組織化を行いました。

実務責任者会議は月1回開催し、この1月まで87回を数えています。この中で時には激しく議論もなされた時があったと聞いております。丁寧に会議を重ね、計画を何度も見直し、現在は部会単位の活動が活発になってきたことから、昨年度より2カ月に1回の開催としております。

ここからは、産業振興会議における条例目標達成に向けた方針決定までの経緯をご説明したいと思います。

産業振興会議では、田川市の中小企業の現況と課題を把握するため、市内全事業者に向けて中小企業振興調査を行いました。活動調査期間は平成29年11月から平成30年の3月、対象事業所は2,104社で、回収数は751社、回収率は35.7%でした。

回収率35.7%というのはこういった調査の中ではかなり高く、回収率を上げるために実務責任者会議の委員の皆さんで手分けして事業所に連絡をしたり、訪問をしたりするという草の根運動が功を奏して、こういった高い回収率を誇っています。また、この調査では、自由記述を求める項目に他に類を見ないほどたくさんのご回答をいただきました。

田川市事業者の皆様が地域に対して真剣に考えていただくことがわかる結果となりましたので、この熱意を伝えるために調査結果報告会を行い、市民の皆さんにもフィードバックしました。

この調査から見えてきた田川市の特徴や課題を整理し、令和元年11月に田川の希望に満ちた未来を田川市中小企業振興ビジョンとして描きました。活力ある地域経済をつくるために、3点に重点を置きました。

1つ目は、地元の中小企業や小規模事業者の自覚と努力。地域の経済や社会を支えているという自覚を持ち、努力し続けることです。

2つ目は、田川市民の認識と理解。雇用を守り、地域のために頑張っている地域の中小企業や小規模事業者を地域住民が応援し、選ぶことです。

3つ目は、時代を担う若者たちへの継承。地元の中小企業や小規模事業者の自覚と努力、田川市民の認

識と理解を若者にしっかりと伝え、学校教育の団体から関わりを作り、田川の未来を共に描いていくことです。

さらに、中小企業振興ビジョン実現のための具体的な方針として四つの柱を設定し、この四つの柱の具現化に向け、令和２年１月に実際に活動を行う四つの部会を設置しました。

ここからは、それぞれの部会の活動をご紹介します。

部会ごとの活動については、実務責任者会議及び実務責任者会議役員会において、月に１回、活動報告と会議員によるフィードバックを行っております。また、各部会の活動テーマは異なりますが、地域経済の活性化に向けて、多面的に働きかけられるように連携して活動しています。

第一部会は四つの柱のうち、中小企業経営者が経営の基本を学ぶ場の開設をテーマに活動をしています。

先ほどの中小企業振興調査では、良好な経営を行っている事業者ほど、経営理念や経営ビジョン、経営計画をしっかりと定めている傾向があることが分かったため、市内の中小企業の経営理念・ビジョンの作成をサポートする活動を行っています。

経営理念や経営ビジョンの重要性がわかる動画を制作し、YouTube で公開するとともに、商工会議所と連携し、令和６年度から中小企業経営者を対象に経営力強化セミナーを年間 10 回ほど実施しております。

経営力強化セミナーでは、中小企業診断士の方を講師としてお招きし、経営理念の作成、決算書の読み解き方、事業計画の作成、AI を活用した広告戦略や営業戦略など、経営に欠かせない様々なスキルをワーク方式で学ぶことができます。

続いて第二部会です。第二部会は四つの柱のうち、地域の課題を解決するソーシャルビジネスの推進をテーマに活動しています。

地域の課題を整理し、社会課題と捉え、解決するための方策を事業化するソーシャルビジネスに挑戦する人を支援する取組を行っています。

令和５年に福岡県立大学と共同し、中小企業振興ビジョン策定後の状況を把握するため、二回目の中小企業振興調査を実施しました。調査結果を分析し、事業者や市民、学生などたくさんの方に自身が関わる田川市を取り巻く状況を知ってもらえるように、こちらも報告会を開催しました。

また、そこから一歩進んで、今年度は第三部会と連携し、地域の困りごと事例をもとにソーシャルビジネスを企画する田川初のビジネスプランコンテスト、田川ゴールドラッシュを開催することになりました。

実際に起業できるビジネスコンテストにすることを目標に、事業計画作成からコンテスト後の起業まで伴走支援ができるよう、実行委員会で協議を進めています。

予想を超える 49 組の応募に対し、2 月 28 日のコンテスト本番に進めるのは 5 組です。現在、実行委員が一人ひとりの事業計画を真剣に審査しています。

次の第三部会は、四つの柱のうち、生活者と事業者をつなぐプラットフォームの構築をテーマに活動しています。

地域に熱い思いを持った田川市の知られざる事業者と、困りごとを抱える生活者をマッチングするウェブサイト、「KIBITTE」の運用により、地域の困りごとを地域の事業者が解決できる仕組みづくりを目指しています。

「KIBITTE」の大きな狙いは、地域内経済循環です。仕事を依頼してお金を払い、そのお金で事業者は

生活をしていき、様々な行政サービスが提供できる。自分が暮らす田川市を自分たちの手で元気にしていくための取組です。

「KIBITTE」は現在、93 事業者が登録しております。部会メンバーが事業者に足を運び、「KIBITTE」の思いを伝えて仲間になっていただいています。

インターネットが苦手な高齢者でも対応できるように、「KIBITTE」にはコールセンターが設置されており、依頼先の分からない困りごとは、オペレーターが聞き取りを行い、登録事業者の検索・紹介を行っています。

また、解決できない困りごとについても、データを蓄積し、登録事業者に情報提供をするとともに、第二部会にソーシャルビジネスの種として共有しています。

他にも、登録事業者を第一部会のセミナーに誘導するなど、第三部会は「KIBITTE」を軸に他部会と密接に連携しています。

第四部会は四つの柱のうち、地域で若者を育て、地域に若者を残す活動をテーマに活動しています。田川市の次世代を担う高校生に、田川市で頑張る経営者や事業者と学校教育の段階から関わりを作り、大人の姿から生きる目的や働くことの意義などを学び、考え、教わる新たなキャリア教育を実践しています。

田川市内の高校を対象に高校生自らが名付けた田川プランナーズが結成され、商店街隣接の空き店舗を活動拠点に企画・準備・実施の段階のすべてを高校生が主体的に行い、商店街のイベントや地域の行事への参加、オリジナルイベントの実施をしています。

Instagram や TikTok を活用し、イベント等の活動報告や田川市の魅力を自分たちでピックアップし、発信する活動もしております。また、地域の経営者を招いた「働くことに関する勉強会」も実施しており、今後は中学生への活動範囲の拡大も視野に入れ検討しております。

以上で、田川市中小企業振興基本条例に基づく活動について説明を終わります。

１０．大東市からの質問

・質問 No1：(大東市/事務局)

部会が設置されるまでの経緯を教えてください。

・回答 No1：(田川市/中山会長)

産業振興会議と実務責任者会議は、条例制定前から実効性のあるものにしようということで、あらかじめ作ることを前提に進めてきましたが、部会の作成は当初全く考えておりませんでした。

まず最初に調査を行い、課題を整理し、ビジョンを策定して、実現のための方針を四つ作りました。これは毎月の実務責任者会議の中で進めていきました。いよいよ方針ができ、方針を実現するための計画づくりに入った時に、実務責任者会議では、方針ごとにメンバーをグループ分けして、毎回グループ討論を行い、どのように進めていくかと、いうことを議論し発表しました。

そのグループ討論をグループ会議を進行するグループ長を固定して進めていたのですが、限られたメンバーでまた限られた時間で全く進まないという状況でした。

そのため、グループごとに部会単位で会議を行い、実務責任者会議はその部会長が集まって進捗状況を共有し、難しい課題は全員で考え、また承認する事項は会議で承認するいう形で、実務責任者会部の下部組織として部会活動を行いました。

実務責任者会議は産業振興会議の構成団体からメンバーを選出していますが、部会は、部会長・部会の権限で、田川市に住んでいる方であれば誰でも参加可能です。そこで多くの人に参加してもらい、多くの知恵を引き出そうという形で、動き出しました。

例えば、第三部会の「地域のプラットフォーム」を作ろうとした場合、どのようなプラットフォームにすればよいかと考えた際、IT 関係者の力が欲しいということで、地元の IT 会社の社員の方に入ってもらうと、どんどんマッチングサイトの計画が動き出しました。また、そこに費用がかかるため、田川市の職員が国の補助金申請を行い、補助金が下りるという流れになります。

つまり、実務責任者会議そのものでは中々進まず、時間も足りないという流れの中で、部会活動という発想に至り、部会ができ、具体的に動き出したという流れです。

・山田会長からの確認

四つの柱が出来、そこから四つの部会が市民を巻き込みながら広まっていったという認識で間違いないですか。

・中山会長の回答

はい、その通りです。30 名ほどの実務責任者会議を四つのグループに再編成し、部会長を決めて部会が動き出したということです。

・質問 No2：(大東市/事務局)

産業振興会議と責任者会議のどちらが一般社団法人たがわ地域活性化センター(以下活性化センター)を設立するにいたったかを教えてください。

・回答 No2：(田川市/中山会長)

旗振り役は実務責任者会議です。

市長の諮問機関として活動している会議が産業振興会議ですので、実務責任者会議が主体的に動いています。

活性化センターはビジョンを策定した際、ビジョンの真ん中に、活性化センターのような組織が必要な時が来るだろうと考えておりましたが、作成時期は未定でした。

そんな中、先ほど説明したとおり第三部会で、プラットフォームの基盤になるマッチングサイトを作成するための費用が必要となりました。そこで市からデジタル田園都市に関する交付金の申請を挙げてもらいました。

その申請は承認されたのですが、任意団体で利用するのは難しいとのことから一般社団法人を作りました。また、実務責任者会議は条例に基づく産業振興会議の下部組織であり、この実務責任者会議をそのまま一般社団法人にするわけにはいきませんでしたので、同じメンバーが構成員として別に、一般社団法人を作ったという流れとなります。

また、活性化センターでは、理事長は私、副理事長が商工会議所の会頭、役員が実務責任者会議の部会長が務めております。

先ほど、「実務責任者会議は毎月開催してきましたが、現状は 2 ヶ月に 1 回になりました。」ということを説明しましたが、実際は実務責任者会議と活性化センターの理事会を各月で開催しております。

また、活性化センターは 2023 年 8 月 10 日に設立しましたけども、翌月 9 月 1 日には、田川市と連携協定を結び、同月の 25 日には田川市からこの活性化センターがプラットフォーム構築事業を業務受託と

いうような形で取り交わして動き出した。という流れです。

・回答 No3：(大東市/事務局)
活性化センターは、どこかの場所に常設で設置されているものでしょうか。また、職員の方は常勤で配置されているのでしょうか。
・回答 No3：(田川市/中山会長)
現時点で活性化センターの登記上住所は田川市役所の住所です。電話番号等は産業振興課の番号であり、問い合わせなどが入れば産業振興課の職員が対応しています。
将来的には一般社団法人として場所を借り、職員配置を目指していますが、具体的にいつまでというのは決まっておりません。

・回答 No4：(大東市/事務局)
令和２年１月に部会が設置されてから、令和４年１１月に第四部会の事業が行われ、令和６年４月に第一部会、第三部会、令和７年８月に第二部会の事業が行われています。どのようなプロセスを経てじわじわと事業が広がっていったのですか。
・回答 No4：(田川市/中山会長)
令和 2 年 1 月に部会が設置され、部会活動がそれぞれ同時にスタートしております。
実務責任者会議で内容を共有し、課題は一緒に考えて解決していくという流れで動いております。 具体的には、事務局の方から説明させていただきます
・回答 No4：(田川市/事務局)
令和 4 年 11 月第四部会は、先ほど説明した「たがわプランナーズ」がキャリア教育の一環として発足しました。
次に令和 6 年 4 月につきましては、第一部会と第三部会です。第一部会は商工会議所と一緒になって、経営の勉強会を始めました。また、「KIBITTE」のサイト運用も開始しました。
令和 7 年 8 月につきましては、これも最初に説明したビジネスプランコンテストです。この案が具体化した月が 8 月というような状況になります。

・回答 No5,6：(田川市/上田委員)
様々な中小企業の方が参画されていると思うのですが、引っ張っていくリーダー的な存在というのは、どのような方ですか。
・回答 No5,6：(田川市/荒川委員長)
部会は四部ありますが、部会長は全て中小企業家同友会田川支部のメンバーです。第一部会は経営者が経営を学ぶ場を提供するということが目的ですが、商工会議所や中小企業診断士、銀行、信用金庫などが加入しています。第二部会は福岡県立大学の教授や、民商の方が加入しています。第三部会は女性人材バンク、地域の民生委員などの地域に密着してる方が加入しています。また、第四部会は田川市の高校などが加入されています。
・上田委員からの追加質問
四つの部会の中で具体的にはどの部門が一番大変だったんでしょうか。

・荒川委員長からの回答

全ての部会が大変でした。部会に関しては全く進まない年が何年も続いたイメージです。その中で、動き出した最初のきっかけは「KIBITTE」です。

「KIBITTE」の登録する条件に「理念とビジョン」が必要なので、「理念とビジョン」がない会社に、どのように理念とビジョンを作ってもらうかということを第一部会が考えました。

また、その取組を商工会所が中心となり商工会議所の予算でセミナーを 1 年かけて行っていただきました。

第二部会も「KIBITTE」にて集まってきた困りごとを元に、ビジネスコンテストという形で開催しております。

第四部会は、プランナーズが出来てから動き出しました。

・中山会長からの補足

「KIBITTE」というのは 500 万をかけて作ったマッチングサイトです。

この「KIBITTE」は IT 関連の社員が入り、やっと進み出したというものですが、これを運営するためにつながりができ、様々な動きに発展していった流れです。

・上田委員の確認

ポイントとしては市民の声をどれだけうまく吸い上げていき、そこにどうお返ししていくかという点が、産業・市を活性化していくためには非常に重要なポイントかなと思うのですが、そのような考えでよろしいでしょうか。

・中山会長からの回答

そうです。

・質問 No7(大東市/内田委員)

このビジョンの策定はどの団体が主導して行ったものですか。

・質問 No7(田川市/中山会長)

実務責任者会議です。

・内田委員の確認

では、実務責任者会議の方が作られたビジョン案というものを、振興会議の方々が承認したというようなイメージになりますか。

・中山会長の回答

はい、そうですね。実際は限られたメンバーで練りに練って作って作成しました。

当初、メンバーたちが理解していたかというとそうではありませんでした。まず動き出し、その中で、繰り返し説明しながら、活動をしてきました。そして、具体的な動きに変わった段階からビジョンを理解したという流れです。

・内田委員の質問

参加している各団体の温度感というのはいかがでしょうか。

・内田委員の回答

まず一番苦労したのは、商工会議所を巻き込むことです。条例が出来、産業振興会議、実務責任者会議に関して商工会議所がトップになってやってほしいというお願いをした際、「意味がよくわからないので、

トップをやることはできないと」と言われました。

そこで条件付けのため、同友会で会長や委員長はやる代わり、組織規模からして商工会議所の協力が不可欠であるため、副会長、副委員長を商工会議所がしてほしいと依頼しました。そのため、同友会と商工会議所は出席率 100%です。

イベントや大きな事業を行うために、役割分担をしないといけない状況になった際には、その都度お各団体にお願いして、受けていただいています。

そのような形で商工会議所と同友会で役割分担を考え、声を掛け合いながら、引っ張っているというのが実情です。

・内田委員の質問

大東市の商工会議所では、セミナーなども企画しています。そのようなセミナーと、各部会が行っている企画の間で事前に調整することなどはあるのですか。

・中山会長の回答

商工会議所が受託している国の予算、県の予算から年間セミナーを事業者の実態調査による課題解決のため、修正をかけ、条例に基づく第一部会の学ぶ場に商工会議所と実務責任者会議が連携してセミナー内容を作り変えて実施しています。

そうすることにより、参加者が絶えず、継続的に参加してくれます。また、「KIBITTE」の登録につながることもあります。

その他、登録している人が経営のことを勉強したいということで、第一部会のセミナーに参加することもあります。

・質問 No8(大東市/阿瀬委員)

部会が回っていく上で様々な課題があると思いますが、そういった課題をクリアするために、事務局である田川市がどのような行動をされたのですか。

・質問 No8(田川市/事務局)

事務局は会議に出席し、課題を解決するための役割を担っています。

例えば、第三部会の「生活者と事業者の地域プラットフォーム」という、生活者の困りごとをどうするかという課題があった際、生活者の困りごとを把握している社会福祉協議会や民生委員を部会の温度感を測りながら、参画していただく仕組みを作っています。

また、課題解決の方法があれば意見をさせていただくということもあります。

・阿瀬委員の質問

基本的には助言まで行っており、実際にその団体に行って入っていただくとかという交渉は、各部会のメンバーがやられたということでよろしいですか。

・事務局回答

それ自体も事務局が行う場合もあります。

・質問 No9(大東市/阿瀬委員)

今までの部会の活動の中で、特に顕著な成果を上げた、活動というのはどの事業でしょうか。また、それを上げた理由も教えてください。

・回答 No9(田川市/中山会長)

部会単位でいえば、現在の立ち位置まで来たというのが最大の成果です。

全体的に見れば二点大きな成果があります。まず一点目は、地方創生法に基づく、デジタル田園都市構想総合戦略に、田川市の産業振興会議実務責任者会議の活動が位置づけされたことです。

したがって、この活動が、単なる田川市の条例に基づく活動から、国家構想の法律に基づいた田川の戦略の中に位置づけられたということ、重要な位置づけに格上げされたことが大きな成果です。

もう一点は、「KIBITTE」が補助金により開設され、一部会、二部会、三部会、四部会とつながりができ、活動の広がりにつながったということ、この二点が全体的に見て大きな成果です。

・質問 No10(大東市/中山委員)

キャリア教育についての質問です。この事業では高校生たちをうまく巻き込んでの活動しているように感じます。この実務責任者会議のメンバーの方にも、高校の先生が入っているようですが、高校側にはどのように接触し、参加する方をどのように選んだのかを教えてください。

・質問 No10(大東市/奥永部会長)

まず当初、第四部会は、地域の若者に残って欲しいという思いと、若者の思いも残してもらおうという考えを持ち活動しておりました。

その中で、すべての高校を対象に、田川未来創造部という仮称を作り、各高校の教頭宛てに平塚さんと二人で訪問しました。そして、学校側から生徒会の生徒に声をかけてもらったり、所属していただいている先生方から声をかけていただき、高校生が集まっていったというのが現状です。

そのような中で、1 つの高校を除く 3 つの高校から 16 人か 17 人ぐらいの高校生が参加してくれました。

田川地域の子どもたちは、大人と触れ合う機会がなかったため、大人や他校の生徒と 30 分程度のアイスブレイクタイムを作りつつ、毎月関わる場の形成を行っております。

また、子どもと関わるうえで気を付けていることは、大人が子どもたちに伝えるとか、教えるという考えをやめるということです。

子どもたちの考えを聞き、様々なことを引き出していく、あくまでもサポートを行うというところに注力して、運営を行っております。

大人たちが教えてしまっていては、大人が考えている方向にしか行きません。その結果、成果は大人が考えてる以上のものは生まれません。

子どもの考えに対して、アドバイスしたり、どうしてそのような考えになったのかということを整理し、サポートしていくことで、大人が想像していないような発想が生まれます。

・質問 No11(中山委員)

大学との連携は、ゼミ単位での連携が多く、年度ごとに学生が変わる事が多いです。

その中で、中長期的に、実りのある活動の継続性や、質の維持をする部分が難しくなります。このあたり、田川市と福岡県立大学との間での、留意している点はありますか。

・回答 No11(中山会長)

田川市は大学と協定等は結んでいません。実務責任者会議の構成メンバーに高校や大学からの先生を

出していただいています。
　その中で、構成メンバーに社会調査実習のゼミを行う先生がいました。そこで事業者調査のあと、生活者の困りごとの調査をゼミと実務責任者会議の共同で行いました。
　その他には、事業者調査後、五年、六年経った段階で、第二回目の事業所調査を一年かけ、大学と実務責任者の共同で実施しました。
　このような関わり合いは我々も勉強になりますし、学生たちがこの地域のことを知るとことができると考えています。

・質問 No12(事務局)
→時間の関係から割愛

・質問 No13(大東市/中山委員)
　「キャリア教育が地域を救う」という文章に大変共感を覚えました。これは具体的な記載が、いただいた資料の中にも見つけられましたので、割愛させていただきます。
　次に社員が自ら学び、主体性を持ちという記載がありましたが、生徒や学生と接する中で、会社、企業の社員の方が、どういった気持ちの変化があったか、実例などがありましたら教えてください。
・回答 No13(中山会長)
　「キャリア教育が地域を救う」という言葉は、第一回目調査にて、完成した調査報告の報告会イベントにて生まれました。このあたりは荒川さんからお願いします。
・荒川委員長回答
　資料３の高校生たちが作った経営指針書に関して、まず説明します
　福岡県立田川化学技術高等学校(工業高校、商業高校、農林高校が合併してできた高校)に経営指針書作りのキャリア教育を依頼した際、先生からは生徒には難易度が高いのではないかとの意見がありました。
　そんな中、生徒 3 人と実務責任者会議のメンバーが 1 ヶ月間、週 1 回 2 時間の時間を作り、経営指針書を作成しました。
　三つの学校協力してもらいましたが、地域の経済循環をどう回していくかということを、高校生たちが自ら考え、報告書を作成しました。
・中山会長回答
　次に社員が変化についてです。これは県立大学の教授からインターンシップを受け入れてほしいという呼びかけがあり、実務責任者会議の企業が受け入れました際に感じました。
　大学生に自社の仕事や魅力、理念を理解してもうためのインターンシップですが、社員が自ら準備を行うことで、自社の理念を理解し、会社の魅力にも気づくことが出来ました。
　また、その結果、社員が会社に定着し、かつ社員も育ったことが主な実例です。

・質問 No14,15(田川市/本多委員)
　若者を地域に残すということをかなり意識されていますが、その具体的な成果・効果を教えてください。また、産業振興会議や実務責任者会議を活発にされてきて、とても成功されている印象ですが、今抱

えている問題や課題を教えてください。

・回答 No14,15(大東市/奥永部会長)

田川プランナーズは高校生を対象にしております。現在３期目ですが、基本的には田川から通っている生徒が主となっています。

初代の部長は、田川が嫌いだから、田川の良いところは無いという気持ちで、入部してきました。ただ、我々と一緒に活動していく中で、田川を好きになり、田川で働くため、田川の教員になることを目指しています。このような夢を持つ学生が生まれたことが、一番の答えだと思います。

また、田川プランナーズの活動を通じて、OB と生徒たちが直接関わり、田川の魅力を伝えていけることも大きな成果だと思います。

また、第四部会だけの課題でいうと、せっかく育った生徒が卒業してしまうこと、新たな生徒の募集から新たな組織編成を行うことが毎年必要になる、ということが今の課題です。

・回答 No15(大東市/荒川委員長)

全体での課題は、今後、ビジョンをもっと具体的な内容に切り替えていく必要がある点だと思います。

部会単位でみれば、第一部会は金融機関など、多くの方が参加されてる中、もっと活躍できる場を広げる必要がある点です。

第二部会はビジネスコンクールを行っていますが、どのように継続していくかという点です。

第三部は「KIBITTE」ですが、、地域の市民と事業者をつなぐという目的で事業を行っています。その中で、BtoB(事業者同士のつながり)や、CtoC(市民同士のつながり)が地域の課題としてあります。

具体的には、田川市企業の 7 割が、将来会社を廃業する、もしくは決まってないというのが大きな課題ですので、例えば「KIBITTE」に後継者がいないという相談事があった際、ブランナーズの方が引き継ぐというようなつながりもできればいいなと思ってます。。

・回答 No16(大東市/上田委員)

田川市産業振興会議として一番苦労している点を教えてください。

・回答 No16(大東市/中山会長)

一番苦労してるのは企業も市民も依存心が極めて強い点です。条例が出来たら、何をしてくれるんだ、「KIBITTE」に登録したら何のメリットがあるのかという話が多いです。

条例が出来て何が変わりましたかといわれたら、まだ変わっていません。ただ、この活動に関わってる人たちの意識は変わりました。

最大の成果は、関わっている人たちの意識を変えることができたことだと思っています。ただ、圧倒的多数の意識がまだ変わってないということが最大の課題です。

現在、「KIBITTE」の登録者は 100 社弱ですが、200 社になれば田川市の全事業所の 5%です。5%になると影響力が一気に広まってきます。また、それが 300 社、500 社になった時にはリードできるのではないかなというような目標を持って取り組んでいるところです。

また、高校生の活動で参加者も増えてきています。注目を浴びており、教育委員会などから見学に来ていますが、「高校生たちがここまで議論できるとは信じられません、大人たちの議論よりすごい」という感想をいただくこともあります。

高校生は高校生レベルぐらいしか力はないと、見てしまっている大人たちが子どもたちの育成の一番

の阻害要因だろうなと思います。先ほど、奥永部会長から話のあったとおり、当事者意識を持つために、大人はサポート役に徹するんだという雰囲気を全体で一番大事にしてます。

また、愛媛で報告会をした際は、自分たちの活動報告は自分たちでしたいと、わざわざ泊まりで来るぐらい、子どもたちは積極性を発揮しています。この活動を中学生にも広げていきたい、というような相談も今受けています。

この件も、奥永部会長は大人が決めるのではなく、子供に考え、決めてさせて、巻き込んでいければ良いという考えをもっています。実は大人より子どもの方が、主体性や当事者意識を育つのが早いです。

この活動を通して、子どもたちが大人になる頃、さらに田川市は元気になっていくのではないかと感じています。

・質問No17(大東市/内田委員)

産業振興会議について、市からお金は出ていますか。また、商工会議所と一緒にセミナーをやろうとした場合に、商工会議所の予算との調整はどのようにされていますか。

・質問No17(田川市/事務局)

今、市が予算措置をしているのは、実務責任者会議の委員謝礼金だけです。

具体的な事業化が進めば、「KIBITTE」のサイトのように、市が判断し議会を通じて予算を取りに行く流れとなっております。

また、商工会議所についてもこの取組に賛同していただいているという大前提で、商工会議所自身が主体的に予算取りをしていただいている流れとなります。

１１．山田会長からのお礼

まず、中山会長はじめ、荒川さん、奥永部会長、事務局の田川行政の皆様、本当にありがとうございました。

今回は具体的かつ、実効性のある内容をレクチャーしていただきました。やはり、田川市でイベントがある時に、参加させてもらうことなどを、来年度是非とも個人的にでもしたいなと思っています。

さて、今回心に突き刺さったのは、主体者となるという部分です。資料９の大東市の基本条例にも、「中小企業者は時代の変化に対応して、経営と地域経済を維持し発展させる懸命の自助努力を続けています。」という文言があります。やはり、どう助けてくれるんだ、何をしてくれるんだ、ではなく、私たちが、この事業者が主体者になって進めていくことが重要だと改めて感じました。

資料６は大東市で成文化した「十年後の大東市の産業振興に関する基本指針」です。この内容も田川市を参考にしながら作成いたしました。

この１０年ビジョンを掲げた以上は達成させなくてはいけないと考えております。その上で今後は田川市を参考にしながら、実践していく覚悟、自覚、責任をもって、市民会議を進めていこうと思いました。

本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

１２．オンライン会議終了後　吉村委員より

「KIBITTE」と似た事業を現在考案しています。どのようにお金集めようかっていう段階まで来ていますし、百社以上の登録も出来ますので、また内容が決まり次第、報告します。

１３．オンライン会議終了後　田中部長より

　机上だけでなく、どう実現していくかを勉強させていただきました。産業経済室としても、どのようにすれば実現できるかを懸命に考えていければと思います。